

2013年07月01日 20:17

米国家安全保障局(NSA)による情報収集問題⇒日本やフランスの大使館を含む38の米国内の大使館や代表部を監視対象として盗聴などを行っていた。

オバマ 盗聴

Comment(0) Trackback(0)



マ、言えることは。。。。

オバマに夢を持たないことだね。

暴露したことの理由を語っていたのでね、

いつかスノーデン氏のことを書ける時がきたら

必ず書こうと思っていたことです。

日本以外スパイ大合戦の形相を呈してきて事実は凄いなって思ってる。

んだけど、日本だけノンビリ構えてるふうですね。

(°▽°)アハハハハハハハノ \ / \ / \

暴露した理由について、

ある1つの出来事がきっかけとなったわけではないとし、

「当局幹部から議会へのうそが嫌になるほど繰り返されていた。

議会もうそを完全に支持していた」と述べた。

スノーデン氏はまた、

「今回の件はオバマ大統領にとって、正気に戻る機会を与える」とし、

情報収集プログラムを調査する特別委員会を設置するよう求めた。

米連邦捜査局(FBI)がスノーデン氏の訴追に向け捜査を開始していることに

ついては、米国では公正な裁判は受けられないとの見方を示した。

■ロイター 2013年 06月 18日 10:30 JST

[米情報収集の告発者が批判に反論、暴露の理由明かす](#)

<http://jp.reuters.com/article/topNews/idJPTYE95H01O20130618?rpc=188>

[ワシントン 17日 ロイター] - 米当局の個人情報収集活動を暴露した中央情報局(CIA)の元職員エドワード・スノーデン氏が17日、英紙ガーディアンオンラインフォーラムに参加し、米政府が情報収集プログラムについてうそを繰り返していることが暴露に至った理由だと述べ、「裏切り者」などと批判されていることに反論した。

フォーラムは1時間半以上にわたり、スノーデン氏は読者や記者からの質問に答えた。同紙のサイトには2000を超えるコメントや質問が寄せられた。その中

で、同氏は暴露した理由について、ある1つの出来事がきっかけとなったわけではないとし、「当局幹部から議会へのうそが嫌になるほど繰り返されていた。議会もうそを完全に支持していた」と述べた。

スノーデン氏はまた、「今回の件はオバマ大統領にとって、正気に戻る機会を与える」とし、情報収集プログラムを調査する特別委員会を設置するよう求めた。米連邦捜査局(FBI)がスノーデン氏の訴追に向け捜査を開始していることについては、米国では公正な裁判は受けられないとの見方を示した。

当 ブログ へ の
皆様のご支援に感謝致します！ ありがとうございます！

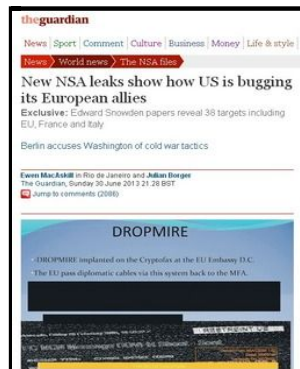
-
- [おーい、とらちゃん出番だよ！ も、ヨロシク♪](#)
 - [とらちゃんがまとめちゃいました～ も、ヨロシク♪](#)
 - [とらちゃんが集めました♪ も、ヨロシク♪](#)

(人気ブログ)と(ブログ村)「2つ」の『ブログランキング』に参加しています。

クリック & 足跡 残し お願いします。ヨロシクです！ (^v^)/～♪
♪♪



ミーハーの嬉しがりやが貼ってま～す♪ ⇒



クリックしてください、大きくなります！

■ Democracy Now!

- * [米国の監視体制をあばいたNSA内部告発者エドワード・スノーデンが名乗り出る インタビュー \(日本語訳の動画約15分あります！\)](#)
- * [NSAの巨大監視プログラムについての一連の動画は、ここへ](#)

■ [エシュロン\(Echelon\) 協力国](#)

ギリシア、スペイン、ドイツ、日本など、いくつかの同盟国にも、参加は認めないものの傍受局を置いているとされる。これらの国と独自情報を提供する協力国を含めて「サードパーティー」と呼ばれ、エシュロンの閲覧は許可されないものの、UKUSAの国益に反しない限りにおいてエシュロンで得られた情報の提供が行われることがある。日本には、青森県の三沢飛行場近くの姉沼通信所に傍受施設(通称「ゾウの檻」)が存在し、1,000人単位のNSA要員が詰めていると言われる他、東京都心のいくつかのUKUSA同盟国の公館内(駐日アメリカ合衆国大使館等)にも傍受施設が存在し、分担して傍受活動を行っているとされている。

■FBI 連邦捜査局「法務省」直轄法執行機関 複数の州にまたがる事件を捜査する。

■CIA 中央情報局「大統領」直轄対外情報収集機関 情報収集と諜報活動。

■NSA 国家安全保障局「国防総省」直轄対外情報収集機関
情報収集とその分析、集積、報告。

スノーデン氏の主張

香港滞在中に

香港紙サウスチャイナ・モーニング・ポストの取材に応じ以下のような主張を行った。

・米を離れて香港に移動したのは隠れるためではなく米の犯罪を暴くためである。

・香港には退去の要請があるまで当分滞在する予定。

・米政府は市民の同意を尊重せず密かに情報収集作戦を行っていたが、この曝露によって今後は社会への説明責任と監督が求められることになるだろう。

・オバマ大統領は人権上問題のある政策を推進している。

日本やフランスの大使館を含む38の米国内の大使館や代表部を監視対象として、盗聴などを行っている。

EUは激怒、

[米NSAの監視、EUも標的か 欧州諸国から非難噴出](#)

アメポチであるアベシは抗議をしないだろうね。

それこそスパイ防止法で捜査しろよって皮肉も言いたくなるな。

(°▽°)アハハハハハハハノ \ / \ / \

つーか、。。。。

基本、情報ただ漏れの日本としては別段異常なしてことかも？

そんな暢気なこと言てられないんじゃないか？

ウィンドウズ、グーグル、アップル、ツイッター、フェイスブックの情報から個人の嗜好や思想まで監視されている上に国家機密まで盗まれちゃって日本はアメリカの抗議しろよなー

■guardian. Sunday 30 June 2013 21.28 BST

[New NSA leaks show how US is bugging its European allies](#)

Exclusive: Edward Snowden papers reveal 38 targets including EU, France and Italy

<http://www.guardian.co.uk/world/2013/jun/30/nsa-leaks-us-bugging-european-allies>

US intelligence services are spying on the European Union mission in New York and its embassy in Washington, according to the latest top secret US National Security Agency documents leaked by the whistleblower Edward Snowden.

One document lists 38 embassies and missions, describing them as "targets". It details an extraordinary range of spying methods used against each target, from bugs implanted in electronic communications gear to taps into cables to the collection of transmissions with specialised antennae.

Along with traditional ideological adversaries and sensitive Middle Eastern countries, the list of targets includes the EU missions and the French, Italian and Greek embassies, as well as a number of other American allies, including Japan, Mexico, South Korea, India and Turkey. The list in the September 2010 document does not mention the UK, Germany or other western European states.

One of the bugging methods mentioned is codenamed Dropmire, which, according to a 2007 document, is "implanted on the Cryptofax at the EU embassy, DC" – an apparent reference to a bug placed in a commercially available encrypted fax machine used at the mission. The NSA documents note the machine is used to send cables back to foreign affairs ministries in European capitals.

The documents suggest the aim of the bugging exercise against the EU embassy in central Washington is to gather inside knowledge of policy disagreements on global issues and other rifts between member states.

The new revelations come at a time when there is already considerable anger across the EU over earlier evidence provided by Snowden of NSA eavesdropping on America's European allies.

Germany's justice minister, Sabine Leutheusser-Schnarrenberger, demanded an explanation from Washington, saying that if confirmed, US behaviour "was reminiscent of the actions of enemies during the cold war".

The German magazine Der Spiegel reported at the weekend that some of the bugging operations in Brussels targeting the EU's Justus Lipsius building – a venue for summit and ministerial meetings in the Belgian capital – were

directed from within Nato headquarters nearby.

The US intelligence service codename for the bugging operation targeting the EU mission at the United Nations is "Perdido". Among the documents leaked by Snowden is a floor plan of the mission in midtown Manhattan. The methods used against the mission include the collection of data transmitted by implants, or bugs, placed inside electronic devices, and another covert operation that appears to provide a copy of everything on a targeted computer's hard drive.

The eavesdropping on the EU delegation to the US, on K Street in Washington, involved three different operations targeted on the embassy's 90 staff. Two were electronic implants and one involved the use of antennas to collect transmissions.

Although the latest documents are part of an NSA haul leaked by Snowden, it is not clear in each case whether the surveillance was being exclusively done by the NSA – which is most probable as the embassies and missions are technically overseas – or by the FBI or the CIA, or a combination of them. The 2010 document describes the operation as "close access domestic collection".

The operation against the French mission to the UN had the covername "Blackfoot" and the one against its embassy in Washington was "Wabash". The Italian embassy in Washington was known to the NSA as both "Bruneau" and "Hemlock".

The eavesdropping of the Greek UN mission was known as "Powell" and the operation against its embassy was referred to as "Klondyke".

Snowden, the 30-year-old former NSA contractor and computer analyst whose leaks have ignited a global row over the extent of US and UK electronic surveillance, fled from his secret bolthole in Hong Kong a week ago. His plan seems to have been to travel to Ecuador via Moscow, but he is in limbo at Moscow airport after his US passport was cancelled, and without any official travel documents issued from any other country.



クリックしてください、大きくなるよ！

【図解】エドワード・スノーデン容疑者の経歴と亡命経路

■ロイター 2013年 07月 1日 14:09 JST

米監視問題が拡大、日本やEUも対象に＝報道

<http://jp.reuters.com/article/topNews/idJPTYE96005120130701?rpc=188>

[ブリュッセル／ベルリン 30日 ロイター] - 米諜報機関の国家安全保障局(NSA)による情報収集問題で、英紙ガーディアンは30日、日本を含む同盟国も監視の対象だったと報じた。同紙によると、米国と対立する国々や中東諸国に加え、欧州連合(EU)使節団や米国と関係の近い国々の大使館が監視の対象となっており、その中には日本のほか、フランス、イタリア、ギリシャ、メキシコ、韓国、インド、トルコが含まれるという。2010年に作成されたNSAの機密文書から明らかになった。

また独シュピーゲル誌は29日、NSAがEUの施設内に盗聴器を設置したほか、内部のコンピューターネットワークに不正侵入していたと伝えた。また翌30日には、NSAがドイツ国内で電話、メール、テキスト通信を盗聴しており、ある月には5億回にも及んでいたと報じた。

これについてEUのアシュトン上級代表は30日、声明を発表し、米政府に対し、これらの疑惑について早急に真偽を確認するよう求めたことを明らかにした。

■東京新聞 2013年7月1日 08時56分

米、日本大使館も盗聴 英紙「38の在米公館が対象」

<http://www.tokyo-np.co.jp/s/article/2013070101001218.html>

【ロンドン共同】米国家安全保障局(NSA)による情報収集問題で、英紙ガーディアン(電子版)は6月30日、日本やフランスの大使館を含む38の米国内の大使館や代表部を監視対象として、盗聴などを行っていたと報じた。米国による一連の情報収集問題で、日本への工作が明らかになったのは初めて。日米関係に影響を与える可能性がある。ガーディアンは、米中央情報局(CIA)元職員エドワード・スノーデン容疑者から提供を受けたNSAの機密文書を引用。文書によると、監視対象はフランスやイタリアといった欧州連合(EU)諸国のほか、日本や韓国、インドなど広範囲にわたっている。

■時事通信 (2013/07/01-09:53)

日本大使館も「標的」に＝米当局が盗聴・傍受－スノーデン容疑者、文書暴露・英紙

<http://www.jiji.com/jc/zc?k=201307/2013070100028&g=soc>

米国家安全保障局(NSA)による情報監視問題で、英紙ガーディアン(電子版)は30日、元中央情報局(CIA)職員のエドワード・スノーデン容疑者(30)が暴露したNSA内部文書に基づき、米情報機関が日本を含む38の在米大使館・代表部の通信を盗聴・傍受していたと報じた。

米情報機関の情報監視問題をめぐっては、欧州連合(EU)が標的になっていたと報じられ、EU諸国が米国に説明を求めるなど、反発が強まっている。同紙が伝えた2010年9月の秘密文書によれば、EU諸国のほか、同盟国の日本や韓国、メキシコ、トルコ、インドも盗聴・情報監視の対象となっていた。

また、07年の文書は「ドロップマイアー」の暗号名で呼んでいた盗聴・情報収集の手法を説明している。通信機器に盗聴器を埋め込んだり、特別なアンテナを使って通信情報を収集したりなど、具体的手法が記載されていた。

■2013/07/01 12:22【共同通信】

英紙盗聴報道で菅氏「関心ある」 しかるべき確認を

<http://www.47news.jp/CN/201307/CN2013070101001481.html>

菅義偉官房長官は1日午前の記者会見で、米国家安全保障局(NSA)が在米日本大使館を監視対象として盗聴などを行っていたとの英紙報道について「関心を有している。外交ルートを通じて、しかるべき確認を求めている」と述べた。これに関し、日本政府高官は共同通信の取材に「事実関係を調査しないといけなだろう」と指摘。「情報保全の在り方も考えないといけない」と強調した。



■NHK 7月1日 5時45分

英紙「在米日本大使館も盗聴の対象」

<http://www3.nhk.or.jp/news/html/20130701/t10015700911000.html>

アメリカの情報機関が極秘に大量の個人情報を収集していた問題で、イギリスの新聞は30日、アメリカにある日本大使館も盗聴などの対象とされていたことが明らかになったと伝えました。

イギリスの新聞、ガーディアンが30日伝えたところによりますと新たに明らかになった文書はアメリカのNSA＝国家安全保障局が2010年に作成した極秘文書の一部とされています。文書には首都ワシントンやニューヨークにある日本を含む38の外国大使館や代表部が盗聴などの対象として記されているということです。対象国の中には日本のほかにもフランス、韓国、インドなどが含まれていたということです。

■日テレ< 2013年7月1日 14:45 >

“大使館盗聴”米政府に確認求める～菅長官

<http://www.news24.jp/articles/2013/07/01/04231460.html>

イギリスの新聞・ガーディアンがアメリカのCIA(＝中央情報局)元職員・スノーデン氏が暴露したアメリカ政府の極秘文書に、首都・ワシントンなどにある日本

を含む38の大使館や代表部が盗聴などの対象として記されていると報じたことを受け、菅官房長官は1日、「報道については承知しておりますが、報道された内容の真偽については定かでない」と述べた上で、報道された内容について、アメリカ政府に対し、事実関係を確認していることを明らかにした。

■fnn-news.(07/01 12:36)

米政府個人情報収集問題 盗聴などの対象に日本も含まれる

<http://www.fnn-news.com/news/headlines/articles/CONN00249007.html>

アメリカ政府が、個人情報を極秘に収集していたと暴露された問題で、イギリスメディアは、盗聴などの対象に、日本も含まれていたと報じた。元CIA(中央情報局)職員が持っていた資料によるものとしている。イギリスの有力紙ガーディアンは、6月30日、スノーデン容疑者が、2010年に、NSA(アメリカ国家安全保障局)が作成したとして暴露した書類の内容を報じた。

それによると、NSAは、日本や韓国など、同盟国を含む38の大使館や代表部を「ターゲット」として盗聴器を取りつけ、監視の対象にしていたという。

一方、ドイツの週刊誌・シュピーゲルも、スノーデン容疑者の極秘資料に基づく情報として、アメリカ政府が、ワシントンやニューヨークにあるEU(ヨーロッパ連合)の代表部などを盗聴していたと伝えた。スノーデン容疑者は、香港を出発して1週間が経過した今も、ロシア・モスクワの空港にとどまっているとみられる。

■TBS

米・国家安全保障局が日本大使館も盗聴か

http://news.tbs.co.jp/newseye/tbs_newseye5371888.html

アメリカ政府の情報機関が大量の個人情報を極秘に収集していた問題で、イギリスの新聞は、アメリカにある日本大使館も盗聴の対象になっていたと報じました。これは、イギリスの新聞「ガーディアン」が30日、アメリカのNSA＝国家安全保障局が2010年9月に作成した極秘文書の内容の一部として報じたものです。

この文書にはNSAが、日本や韓国、トルコなど、アメリカにある38の大使館や代表部の通信を盗聴、傍受していたことが記されているということです。この文書はアメリカ政府による個人情報の収集問題を暴露した元CIA職員・スノーデン氏がリークしたものだということです。

「しかるべき確認を求めることにしたい。外交ルートを通じて」(菅義偉官房長官)

また、ドイツの週刊誌、「シュピーゲル」は29日、「NSAがEU＝ヨーロッパ連合の施設などに盗聴器を仕掛けていた」と報じました。

「(報道が)事実だとすればショックだ。ヨーロッパとヨーロッパの機関が、まるで敵のように扱われたことになる」(欧州議会 シュルツ議長)

欧州議会のシュルツ議長は「アメリカの主張を聞いた上で必要な措置をとる」と

して強く反発しています。また、この問題がEUとアメリカによるFTA＝自由貿易協定の交渉にも影響を及ぼすという見方も出ています。(01日14:13)

■テレビ朝日

米NSA盗聴 在米日本大使館も標的か 英メディア(07/01 14:01)

http://news.tv-asahi.co.jp/news_international/articles/000008019.html

アメリカのNSA＝国家安全保障局による情報収集問題で、イギリスの新聞が在米の日本大使館が盗聴の標的になっていたと報じました。

イギリスの「ガーディアン」紙は30日、NSAがワシントンの日本大使館を含む38の在米大使館などに対し、盗聴などの通信傍受を行っていたと報じました。元CIA＝中央情報局の職員、エドワード・スノーデン容疑者が暴露したNSAの極秘文書の一部から明らかになったということです。また、ワシントンのEU＝ヨーロッパ連合の代表部でも盗聴が行われていたとドイツのメディアが報じていて、EUがアメリカ政府に説明を求めるなど波紋が広がっています。日本大使館が盗聴の標的になっていたと報じられたことについて、菅官房長官は会見で「外交ルートを通じて内容の真偽を強く求めていきたい」とコメントしました。

The Guardian, Glenn Greenwald and Laura Poitras



■3k 2013.7.1 11:29 [米国]

米、日本大使館も盗聴 38の大使館、公館を対象に 英ガーディアン紙報道

<http://sankei.jp.msn.com/politics/news/130701/plc13070111310016-n1.htm>

【ロンドン＝内藤泰朗】米国家安全保障局(NSA)による情報収集問題で、英紙ガーディアン(電子版)は6月30日、米当局が日本やフランスなど同盟国を含む38の在米大使館や代表部を盗聴の対象にし、特殊な電子機器などを使って情報収集を行っていたと伝えた。日本公館への盗聴工作が明らかになったのは初めてだ。

同紙は、米中央情報局(CIA)元職員、エドワード・スノーデン容疑者から提供を受けたNSA機密文書を引用。2007年の文書によると、38の盗聴対象には、米国の敵対国に加えて、フランスやイタリア、ギリシャといった欧州連合(EU)諸国のほか、日本やメキシコ、インド、韓国、トルコなども含まれていた。

しかし、10年9月の文書には、英国やドイツなどの西欧諸国は入っていなかった。盗聴対象となった公館はいずれも、「ターゲット(標的)」と書かれているという。

ワシントンのEU代表部への工作では、暗号機能付きのファクス内に盗聴機と特殊なアンテナを仕掛けられ、職員のパソコン内のデータをのぞき見る手法も用いられていたという。日本大使館への情報収集の方法は不明。報道を受け、ドイツ政府高官は「冷戦時代の敵国への扱いをまざまざとさせる」と述べ、事実関係の釈明を米国側に求めている。

■2013/07/01 08:56【共同通信】

[米、日本大使館も盗聴 英紙「38の在米公館が対象」](#)

<http://www.47news.jp/CN/201307/CN2013070101001218.html>

【ロンドン共同】米国家安全保障局(NSA)による情報収集問題で、英紙ガーディアン(電子版)は6月30日、日本やフランスの大使館を含む38の米国内の大使館や代表部を監視対象として、盗聴などを行っていたと報じた。米国による一連の情報収集問題で、日本への工作が明らかになったのは初めて。日米関係に影響を与える可能性がある。ガーディアンは、米中央情報局(CIA)元職員エドワード・スノーデン容疑者から提供を受けたNSAの機密文書を引用。文書によると、監視対象はフランスやイタリアといった欧州連合(EU)諸国のほか、日本や韓国、インドなど広範囲にわたっている。